〈今月の紙面〉

「食料・農業 知っておきたい話」―92-2020年農林業センサス概要 17~19歳男女「第一次産業立て直し」

トマト 果房局所加温で冬期収穫早期化 乳牛 イネWCS給与で酸化ストレス軽減(増体向上し疾病減少 ネックウォーマーと ケットで (畜産物需給見通し (

の田村英寛氏(63)・美

県久慈市侍浜町侍浜開拓 梅木修司氏(70)と岩手

を授与している。

受章した梅木氏(酪農

生乳工場を設立し、地域

一方で、堆肥センターや

事業は1894(明治27)

保。

牛舎環境の改善や牛

表彰の事由。

同会の農事功績者表彰

の高い自給粗飼料を確

受章した。

門の「緑白綬有功章」を 紀子さん夫妻が、畜産部

やラップサイレージの導 経営)は、①草地の拡大

八により高品質で栄養価

より地域リーダー等の育

成に尽力してきたことが

消に尽力してきたことに

より表彰された。

分

によって耕作放棄地の解

若手農業者への支援等に 向上に貢献。研修受入や や地域全体の乳量・乳質 牛群検定加入農家の拡大

するとともに、放牧利用 の生産環境の整備に貢献

は、

開拓組織から、青森県上 功績表彰者を発表した。

北郡六ヶ所村庄内開拓の

功績のあった農業者等の

表彰を行い、賞章と賞状

と地域への波及により、 の改良や個体管理の実証 立していること、②乳牛

現していること、②自ら

の経営の規模拡大を図る

長年にわたって農業・農 回で104回を数える。 年から行われており、今

プレベルの酪農経営を確 理の徹底などで県内トッ

と和牛部門二つの法人化

による先進的な経営を実

村の振興・発展に顕著な

(3面) ップ (4面) (5面) (6面)

とジャ(7面)

(8面)

11月16日、20年度の農事

(公社) 大日本農会は

群検定を活用した個体管

公益社団法人全国開拓振興協会 〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 $TEL\ 03{-}3586{-}5843$ FAX 03-3586-5846 -ジ http://www.kaitakusya.or.jp 全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会共同編集

発 行 所

72 回通 理 事 に平嶋氏、監事に石原氏 常総会を開

全開連

に石原文義氏(香取開拓農協代表理事組合長)が就任した。 を行った。新理事に平嶋勝博氏(福岡県畜産農協代表理事組合長)、 事業報告、貸借対照表、損益計算書などを承認し、第73年度事業計画設定な 回通常総会を開催した。第72年度(19年8月1日から20年7月31日まで)の との議案を原案どおり可決、決定。さらに、役員2名の退任に伴う補欠選任 全国開拓農業協同組合連合会は11月27日、東京・赤坂の三会堂ビルで第72

生じ、生産者は大変な状 明。7月の九州南部豪雨 下がりなど大きな影響が 被災については、 及びゼンカイミート㈱の による人吉食肉センター 況下にある」と懸念を表 により、牛枝肉価格の値 大が続く中、「経済の停滞 コロナウイルスの感染拡 拶を行い(写真)、新型 冒頭、平木勇会長が挨 全開 て議事に移った。第1号 きな問題であり、再建を 連の基幹事業である食肉 告、貸借対照表、損益計 議案=第72年度事業報 長の西谷悟郎氏を選任し 拓酪農農協代表理事組合 検討している」と述べた。 を司る同施設の被災は大 続いて、議長に三瓶開 及び附属明細書承 注記表、損失処理 認について一が上程さ =退任役員に対する退任 酬について、第4号議案 月31日)事業計画設定に 明、圷幸一代表監事の監 れ、村上進専務の議案説 73年度理事及び監事の報 ついて、第3号議案=第 数で原案どおり承認。 査報告を受けて、賛成多 (20年8月1日~21年7 第2号議案=第73年度

び監事の辞任に伴う補欠 た。 数で原案どおり決定し は一括上程され、

れた。 事に石原文義氏が選任さ な理事に平嶋勝博氏、監

次に第6号議案=定款

の一部変更について、最

店と商品開発、酪農部門 牧場直営の焼き肉店の出

える大規模経営を確立。 模拡大により1千頭を超 ①生産コストを抑えた規 酪農経営、法人)は、 田村夫妻(肉用牛一貫

梅木

・田村(岩)

一両氏が受章

20年度農事功績者表彰

57億9844万円 %)、販売事業が3 59万円(計画比8 事業が110億83 事業取扱高は、 47億1484万円 (4%) となった。 (92%)、合計で4 全開連の第72年度 購買

給与金の支出について一 賛成多 業総利益は4億2517 た。また、人吉食肉セン 事業では減益となり、事 購買事業では増益、販売 万円 (8%) にとどまっ

選任。投票の結果、新た 第5号議案は、理事及 ター及びゼンカイミート 等の被害額を臨時損失で ㈱が被災した際の部分肉

生産基盤強化を図るた

4304万円を計上。

事

価される日本

る品目を中

心に輸出を加 本の強みがあ い。海外で評 する産品のシ わたり、日本 が加工品を中

能な輸出物流の構築を検

業総利益は4億6571

め、会員と一体となって

各事業に取り組む。事業

万円を計画している。

速させ、その波及効果と

して全体の輸出を伸ば

大の余地の大

件)を発出。 号議案=理事1名選任の 11月13日ま

会員宛てに提案書(第1 理事の補欠選任のため、 谷悟郎会長は10月30日、 理 全国開拓振興協会の西 生事に選任八代氏を新 全国開拓振興協会

が得られた。

石原氏を新 事に選任 全日本開拓者連盟

鳥インフル感染拡大止まらず

今季の養鶏場での確認 ンフルエンザは、西日本 た (12月14日現在)。 で感染が相次いでいる。 で発生した高病原性鳥イ 各県とも飼養鶏の殺処 11月に香川県の養鶏場 10県・26事例となっ 移動制限·搬出制限 スは、高病原性H5N8 可能性がある。 亜型と判明。11月からの 農場で検出されたウイル 区域の設定、消毒などの 発生は時期としては早 防疫措置を行った。発生 く、各地に感染が拡がる 野鳥からの同ウイルス 関係者は防疫対策を徹底 まっている。 必要がある。 例年より感染リスクが高 ていると考えられる。 鳥が、ウイルスを拡散し 全国どこの地域でも、 厳重な警戒に努める

養鶏農家·

れぞれ承認され、 後に付帯決議案がそ 閉 農産物輸出拡大へ

政府は11月30日、「農 「重点品目」設定・「輸出産地」育 かす「重点品目」と輸出

品を専門的

の対応等に関する関係閣 き、25年2兆円・30年5 僚会議(第10回)」を開 大のための輸入国規制へ 林水産物・食品の輸出拡 進する。 目標を設定。海外の規制 やニーズに対応した「輸 出産地」の育成などを推 農林水産物・食品の輸

処理した。 期3ヵ年計画の最終年 度。生産者の経営安定と とめた。日本の強みを活 第73年度は、第10次中 3万円、合計で398億 売事業が287億546 取扱高は、 価格、品質、規格)の産 10億8841万円、 購買事業が1

販

心に多岐に

輸出品目

形成に必要な施設整備な

の強みを有さ

ェアが少な

り組む大ロット・高品質 また、産地が連携して取 どを重点的に支援する。

効率的な輸出に対応可

向けた実行戦略を取りま 兆円の輸出目標の達成に

求められるスペック(量、 出拡大には、海外市場で

に活かす品

▽日本の強

目標を設定

合連合会代表理事会長の でに全会員の同意(賛成) に静岡県開拓農業協同組 八代正幸氏が就任した。 新理事(関東ブロック) のため、20年度臨時総会 伴う補欠選任について一 月27日、監事の補欠選任 1号議案=役員の辞任に (書面議決)を開催。 全日本開拓者連盟は11

が就任した。 を賛成多数で議決した。 連盟委員長の石原文義氏 新監事に鳥取県開拓者 第 |す。輸出拡大 年の輸出目標 策を明確化。 ト国・地域 リンゴ、米、 きい品目として、牛肉、

飛来数が増えている渡り の確認は10月以降、6道 県・14事例(同)となった。 の拡大を目的 4億円から328億円へ けを中心に、 乳・乳製品: 目標額が大きく、19年実 重点品目ごとにターゲッ 目を「重点品目」に選定。 績297億円の5倍強の 1600億円とした。 牛 は、アジア向 。牛肉が最も 標や課題・方 を特定し、25 19年の18 茶など27品

関係団体・ コンソーシ また、重点品目ごとに、 指す。 事業者などで ム(共同事 組む。 出防止対策の強化に取り 守るため、知的財産の流 また、日本産の強みを

ご希 本紙 望の方はお知らせ下さい。 は無償で提供しています。

成 政府 ゲット国の情報収集・販 業体)を組織化し、ター 売戦略づくりなどに取り

ットイン)体制の整備が 産・販売する (=マーケ 目別の具体的 強みを最大限 を立案・実行 考え方に基づ 摘。次の三つ ・ 継続的に 生 ーケットインの発想に基 の供給を後押しする。マ 取り組む事業者への資金 想で輸出にチャレンジす 販売力の強化を図る。 づく「輸出産地」を20年 る農林水産業者を後押し 度中にリスト化し、その 組む。官民一体となって リスクを取って輸出に ▽マーケットインの発

いて、政策な

するとしてい

いる。

の基本的なも 不可欠と指導

討する。 を克服 府一体として輸出の障害 ▽省庁の垣根を超え政

行う。 適合施設の認定を迅速に もに、関係省庁が連携し、 設定。計画的な施設整備 ・流通施設の整備目標を どの規制に対応する加工 体となって協議する。H 和・撤廃に向け、政府一 出先国・地域の規制の緩 ACCP (ハサップ) な に向けた支援を行うとと 重点品目を中心に、輸

情

拓

第752号

R P 協定 15

力

玉

重要5品目は関税削減から除外

国、中国、韓国、豪州、 南アジア諸国連合)10ヵ 会議をテレビ会議形式で な包括的経済連携)首脳 国は11月15日、RCEP ニュージーランドの15ヵ (アールセップ、地域的 日本とASEAN (東 目(米、麦、牛肉·豚肉 乳製品、甘味資源作物) 協定)の82%よりも低い UとのEPA(経済連携 撤廃の対象から全て除外 については、関税削減・ 水準となった。 重要5品

関税撤廃率は、TPP(環 太平洋連携協定)や、E 日本側の農林水産品の 要6ヵ国が交渉立上げを にわたり、協議を続けて 宣言したEPA。8年間 SEAN10ヵ国と周辺主

の人口、GDP (国内総 り込まれている。 ドについては、早期に加 PAとなる。 参加国合計 韓国と初めて締結するE 発効後18ヵ月間、新規加 定がある。ただし、イン 入できる特別の規定が盛 入国を認めないとする規 日本にとっては中国、 を関税削減・撤廃の対象 野菜は、中国以上の品目

開き、協定に合意、署名

RCEPは、12年にA

交渉を離脱し、15ヵ国の きたが、昨年、インドが 署名となった。協定には、 ランドは61%、対中国は の対象から除外。韓国の 国からの野菜は、生産者 56%、対韓国は49%。中 など)を関税削減・撤廃 いとする多くの品目(タ 産品の巻き返しを図りた 団体が加工・業務用で国 関税撤廃率は、対ASE マネギ、ネギ、ニンジン AN・豪州・ニュージー すれば、巨大な経済圏が 誕生することになる。 日本側の農林水産品の

割を占める。協定が発効 それぞれ世界全体の約3 生産)及び貿易総額は、 から除外した。

るパックご飯や米菓への を獲得済み。初めてEP Aを結ぶ中国が課してい る農林水産品は、TPP ンドなど)。 で、主な品目の関税撤廃 や個別のEPAの締結 ア、豪州、ニュージーラ 一方、日本から輸出す

る(ベトナム、マレーシ 廃の対象から除外され れの合意内容が適用され している国とは、それぞ 肉調整品は関税削減・撤 Pや個別のEPAを締結 た。参加国のうち、TP 重要5品目と鶏肉・鶏 得した。

込みと発表した。前年産 量は722万5千少の見 年産水稲の主食用の収穫 農水省は12月9日、20 ・5%)の減少となる。 に比べ、3万6千少(0

る。また、インドネシア が課している牛肉への関 21年目に撤廃。同じく韓 階的に削減し、いずれも 税 (5%) は、 廃又は15年目撤廃」を獲 %)は15年目に撤廃され 国の日本酒への関税(15 酒への関税 (40%) は段 「即時撤 備する。 どのルールを規定し、輸 る。税関手続き・貿易円 滑化、衛生植物検疫措置、 は、ASEANで6ヵ国 出促進に資する環境を整 地理的表示、商標権)な 知的財産(植物品種保護、 なお、同協定の発効に

わっていない。

野での規定も設けてい RCEPは、ルール分 3ヵ国以上の批准が必要 以上、ASEAN以外で

> 産比3世僧の見込み。全 収量は531まで、前年

発生歴のある

年並み」で、前回と同じ。 ただ、米生産が盛んな北

国の作況指数は99の「平

らの牛肉等の

今年の米収穫量3万6千ヶ減

海道が106、東北が1

ては「つぶれても構わない」 きた。特に、中小農家につい 結局は、政権を支えてくれる の農業参入に好都合」と考え てきたかのように思われる。 な制度改革が推し進められて 「むしろ農地が空けば大企業 ある。このままでは地域コミ くべき低水準に陥る可能性が 安全安心な食料を量的に確保 ないし、地域の住民や国民に ュニティが維持できるわけが は8%、35年には3%と、驚 を考慮すると、野菜の自給率 発表よりも4千ヶ減っ 前回(10月15日現在)の

うのだ。原野に戻せ」と言い、

関税(現在10%)、日本

けすることしか頭にないので 経済界のため、金儲けを手助 (2018年) と将来推定値 することも到底できない。 食料自給率 2035年推定值 $(A \times B)$ 8 3 2 11

だが 核は農林漁業のはず

られなくては、観光も成り立

元気で地域の環境や文化が守

人々を蝕む。

がある。地域の農林水産業が 組みづくりを進めていく必要

ならない。これを非効率とい するから行政もやらなければ ころに無理して住んで農業を こんなところに人が住むの か。早く引っ越せ。こんなと 社の丁会長はK県で「なぜ、 ところが、大手人材派遣会 けられることを意図したよう 汰」して、オトモダチの流通 入れていくべきかは明らか はずである。政府が何に力を には、農林水産業が核になる だ。ところが、家族農業を「淘 大手企業などが虫食い的に儲 限界集落化が止まらない段階

た。都市部の過密な暮らしは はないか、と疑いたくなる。 それ以外の廃業が増え、全体 はそれなりに増えているが、 ームと言われる超大規模経営 畜産でも、メガ・ギガファ

%、このままだと、2035 に入っている。 年には2%、種の海外依存度 の海外依存度を考慮すると、 牛肉の自給率は現状でも11 特に、下表のとおり、

(A)

80

48

96

野 菜

豚 肉

鶏 卵

肉

30カ月齢超 桃及び回腸 は、現行の の議論を開

脊髄及び脊

柱から、「30

BSEと呼ぶ。

まったなし 抜本的な対策が

を農家が予見できることが重 事態においても、必要な補填 方策、仕組みが普段からシス かない。この格差を改善する 問題として、平均961円し は、コロナ・ショック以前の 時間あたりに換算した時給 テムとして組み込まれ、緊急 がしっかりと発動されること そもそも、農家の所得を1

> としても、 件を「条件 る牛肉等の 同国から輸

入

なし 月齢条 入され 提に、

きる」と評価 のリスクは無視で

推定値は東京大学鈴木宣弘研究室による である。そもそも、一過性の 緊急対策は政治家の点数には のではないし、一過性の対策 苦肉の策の一つだが、それら 営計画が立てられない。 まりいつ終わるかがわからな なるかもしれないが、いつ始 は農家の所得を直接支えるも い制度では農家は安心して経 GoToイートや牛肉券も

食料国産率と食料自給率の比較

食料国産率

2035年推定值

43

16

11

19

り、過去最大規模の作付 け転換が必要な状況は変 は693万少とされてお た。21年産の適正生産量 136万6千診で、前年 主食用米の作付面積は 臟(以下、 受けて、スペ 催。厚労省 は11月12日 入される牛肉及び牛の内 プリオン専門 内閣府食1 牛肉等)に係 ペインから輸 からの諮問を 門調査会を開 品安全委員会 第120回 求めている。 リスクを比較することを 脊髄」に変更した場合の カ月齢超の牛の頭部及び 起草委員の検討による

定の条件下で再開され 年1月、月齢制限など一 BSE (牛海綿脳症) の輸入は、今 るスペインか 影響評価等を 可能性はほとんどな 中では、国内で発生する E対策が継続されている やSRM除去などのBS に係る評価の考え方 定型BSEは 「飼料規制 (案)」が示された。① 「SRMの範囲の見直し

産に比べ1万3千診減少

る食品健康と

した。全国の10~当たり

審議した。

い」、②非定型BSE(※) オン専門調査会 髄(30カ月齢超) きない」と説明。 の可能性は確認で の感染試験の結果 のうち、H-BS から、人への感染 Eは「実験動物へ 一方、脳及び脊

は、多くの県で55~80 だった。一方、西日本で 04と、平年以上の作柄

て、さらに月齢の 的な基準を踏まえ 諮問事項の た。審議の結果、

国際

「やや不良」だった。

産牛肉の月齢制限撤廃へ

れているリスク管 関し、現在実施さ 場合のリスク」に 齢)を引き上げた 規制閾値(30ヵ月

ロイツフェルト・ CJD (変異型ク 摂食による人のv SE由来の脊柱の と、また、L-B の対象であるこ は引き続きSRM

理措置を前に

あることを指摘してい 可能性を判断する必要が ヤコブ病)発症の

S R M

範囲の見

直しへ議論開始

の牛の頭部、 遠位部並びに 始した。諮問 健康影響評価 範囲の見直し RM(特定危 SE国内対策 からの諮問を 食会では、 同 「全月齢の扁 BSE、小さいものをL Eより大きいものをH-E。 異常 プリオンタンパ 進めることとなった。 委員が評価書案の作成を ク質の分子量が定型BS 確認される散発性のBS いて合意が得られ、起草 ※ほとんどは8歳超で 審議の結果、同案につ

険部位)の窓

に係る食品

のうち、Sp

受けて、B

じく厚労省

依存しないで回っていく循環 域経済が観光や外需に過度に

ロナ禍で限界露呈

東京大学教授 鈴木宣弘氏

> ているが、この議論には、経 けるべきかどうかが議論され

どう評価するか

GoToトラベル事業を続

し、地域の中で経済が回る仕 のものを改め、地域を豊かに

して推進する方向性が間違っ のが効率的な社会のあり方と 拠点都市に人口を集中させる 非効率として放棄し、東京や の方向性=地域での暮らしを た。コロナ・ショックは、こ そうした発言を繰り返してき

ていたことを改めて認識させ

GoToトラベルを

る。つまり、本質的には、都

市人口集中という3密構造そ

第92回

なる観光であり、観光に依存 るが、GoToトラベルは単 構造を生み出すことが望まれ

した地域振興はそのままであ

済社会の構造そのものをどう

を転換するという視点がな るだけで、都市部の3密構造 感染を全国に広げて帰ってく 3密構造をそのままにして、

バウンドだ、輸出だ、と騒ぐ 足元を見ずに、観光だ、イン

産したものを消費に結びつけ

地域に働く場をつくり、生

の平均規模は拡大しても、

4

て循環的な地域経済をつくる

れず、総生産の減少と地域の

めた農家の減産をカバーしき

飼料自給率

(B)

10

26

13

13

12

GoToトラベルは都市部の

円が実現できるわけがない。 たない。ましてや、輸出5兆

如しているように思われる。 転換するか、という視点が欠

危うい観光・外需頼み さらには、根本的には、地

牛で、種雄牛は「茂晴花」。

12月4日、多久市の佐賀

が出品された。

とおり。

役)本多由和▽同支所東

(同支所青森事業所考査

審査の結果、

県知事賞

佐賀県開拓畜産事協は

種2頭、肉豚部門に10頭

両部門の入賞者は次の

級だった。

村輝夫▽東日本支所長 所長兼東京事業所長)

▽管理部長(東日本支

(12月1日付)

種は2頭(雌)とも4等 78・9%を占めた。 交雑

佐賀開拓びより牛・開拓豚枝肉共進会

枝肉重量621・2kg、

輝いた。26ヵ月齢の去勢 は山田忠義氏の出品牛に

審査の結果、最優秀賞

(毎月1回15日発行)

場食肉市場で20年度の枝

枝肉重量が539・3

優秀賞

出品牛全体の成績は、

最優秀賞

山田忠義

MSM12、格付はA5。 バラの厚さ9・8㎝、B

優秀賞

中山

工

(去勢583・3㎏、

雌

野田貴文 野田貴文

肉重量が565・3㎏

全開連人事

和牛全体の成績は、枝

で、4等級以上比率は1

福岡県畜産農協は11月

クされた。

福岡市中央卸売市

肉共進会を開催した。今

8頭、

雌13頭)が出品さ 交雑種21頭(去勢

肉 牛

Щ

口氏に栄冠

00%。5等級が15頭で

(3)

の厚さ9・0cm、BMS

格付はB5にラン

牛部門に和牛19頭と交雑

27ヵ月齢の和牛去勢で、 氏の出品牛に決定した。

優秀賞

最優秀賞

山口義男 山口昌吾

農▽管理部参与

(管理部

長)吉川佐太郎

事業所支所長代理)神野

京事業所長 (同支所東京

・最優秀賞は、山口義男

和牛〉 • 肉牛部門

肉共進会を開催した。肉 開拓びより牛・開拓豚枝 県畜産公社で第5回佐賀

ロース芯面積4㎡、バラ

Ш

氏が最優秀賞

福岡県畜産農協枝肉共進会

%と前年成績を上回っ

た。入賞者は次のとおり。

級以上比率が81・0%、 512·2kg)、肉質3等

4等級以上比率が47・6

平」。枝肉重量589・

〈交雑種〉

㎏、ロース芯面積82㎡、

優秀賞

有 鶴 畜 産

• 肉豚部門

福久」、祖母の父「勝忠 父「芳之国」、母の父「安

優良賞 優良賞

樋口秀隆 徳久好春 拓

報

農業経営体

减

少続

2020年農林業センサス概要

業センサス結果の概要 表した「2020年農林 「概数値)」によると、 農水省が11月27日に公 れる。 かな農林行政を推進する ために、5年ごとに行わ 全国の農林業経営体数

化も一段と進行してい いることも分かった。 模拡大の進展が継続して の減少率となっている。 比べ30万2千減少した。 月1日現在) は5年前に 業従事者数ともに20%台 林業・農山村の現状と変 基幹的農業従事者の高齢 **晨業経営体数、基幹的農** 農林業センサスは、農 一方で、法人化や規 7万6千、林業経営体数 業の複合経営有り)。 ぞれ30万2千(21・9 は3万4千となり、それ %)、5万3千(61·2 少。 農業経営体数は10 31万2千 (22・2%) 減 前に比べ(以下同じ)、 %)減少した(農業と林

化を的確に捉え、きめ細 %)減少した。一方、団 千で、30万3千(22・6 介経営体数は103万7 農業経営体のうち、個 10 診以上の各層で増加。

は109万2千で、5年 1千増加している。 万、農事組合法人数は7

なり、1千(2・6%) 体経営体数は3万8千と みると、 会社法人数は2 る法人経営体の割合は80 4千 (13・0%) 増加。 増加している(表)。 ・1%となった。内訳を 結果、団体経営体に占め 入経営体数は

3万1千で 団体経営体のうち、法

診以上層で、都府県では ると、北海道では100 農業経営体数の増減をみ 千となり、それぞれ3千、 経営耕地面積規模別に 30・6 %、都府県2・2 営体の1経営体当たりの 体が55・7%を占め、8

農業経営体数 (全国)

表 (千経営体) 区 分 個人経営体 団体経営体 農業経営体 法人経営体 2010年 1,679 1,644 36 22 27 1,340 37 1,377 1,037 38 31 1,076 増減率(%) 2015年/10年 $\triangle 18.0$ △18.5 4.9 25.3 △21.9 △22.6 2.6 13.0

は、10診以上の農業経営 経営耕地面積の集積割合 診)で、2・5 診から、21 面積は3・1
診(北海道 経営耕地のある農業経 拡大が進んでいる。 19・3%) 増加し、 特に、5億円以上の層で 以上の各層で増加した。 • 5% (同15 • 5%) は42・6%と、高い増加 をみると、3000万円 に農業経営体数の増減率 農産物販売金額規模別 規模 り 率となった。 類 1・9浮下降。果樹 施設野菜はそれぞれ

人経営体の基幹的農業従

農業経営体のうち、個

体経営体で66・9%)

だ 寸

2・5%增、

遅いため、

に制約を受

2020年/15年 者数(個人経営体)の構成(全国) □ 60~64歳 242 (13.8 1,140 (64.9) 146(10.7) -126(9.3)949 1,361 (69.8)

800

となった。結果、個人経

齢階層別にみると、85歳 は67・8歳となった。年

未満の全ての階層で減少

は66万6千で12万4千減 **力8千減、副業的経営体**

となった。

農業従事者40万人減

める割合は35・5%(個

介経営体で34・4%、

6か。4月 0・9%増 万2020 北海道が2

64・2%(5・3|||次上昇)

ている農業経営体数は38

万2千で、全経営体に占

査した。青色申告を行っ

総受託乳

と、稲作が55・5%とな 1位の部門別に農業経営 体数の構成割合をみる 販売金額第

同 2015年 2020年 L139(10.2) 600

200 400

業経営体が22・2%(0

している。

呂体に占める割合は、

0

体が13・6% (5・7%)

青色申告の実施状況も調

今回のセンサスでは、

• 4 | 浮上昇)、準主業経営

下降)、副業的経営体が

2015

2020

1,757

1,000 1,200 1,400 1,600 1,800 2,000

ると、主業経営体数は23

減った (図) 。 65歳以上 39万6千人(22·5%)

た20年10月

中央酪農

12 カ 月

人経営体を主副業別にみ

農業経営体のうち、

員)は136万1千人で、

力で6万2千減、

準主業

(9万9千人) が占める

は、前年同日

割合は69・8%となり、

0・9次、0・5次上昇

事者(仕事が主で、主に

目営農業に従事した世帯

している。

富山県南砺市・立野原開拓





年11月、約600診の旧 場だった。45 (昭和20) 戦時中、陸軍の軍事演習 野原(たてのがはら)は、 野の南西端に位置する立 員軍人や引揚者らで組織 として払い下げられ、復 、開墾が進められた。 陸軍用地が戦後開拓地 富山県の西部、砺波平 立野原は県内でも入植 がっている。戦後開拓地 水量が少なく、土壌は強 90 以。小渓流があるが、 地である。標高は平均1 は山間地が多かったが、 東砺波郡城端町)にまた 町)と同城端地区(旧・ 地区(旧・西砺波郡福光 た。広大で、南砺市福光 者の多い戦後開拓地だっ で、南部も傾斜の緩い台 立野原の北部はほぼ平坦

ので初雪が早く、融雪は 急峻な山々に接している 酸性だった。白山山系の 培されている 光農業とし の「干し柿」 野菜やイチ 現在は、

(同臣) 、 で、

どに取り組 入植者は、 設事業など 作業、土壌な され、土地 マネギ、サトイモなどの 葉タバコや日 り」が行わ 和53) 年2 真①。 開拓記念碑がある(写 立野原開 福光地区 碑銘 酪農の導入、 んだ。 は「拓魂豊潤」 大きな記念碑 に建立された だ、 78 昭 われている。 て、「イチゴ狩 る。また、観 」用の柿が栽 ゴ、同市特産 ダイコン、タ 野菜の栽培な を推進した。 改良、入植施 の配分や開墾 揮毫者は「農 が遂に実現の運びとなっ が確立し
先史以来の夢 完成により当地の用水源 年念願の国営刀利ダムの た」と記されている。

けた。 拍農協が設立 ある。 のであった」「昭和四十二 墾営農は言語を絶するも しかしその艱難辛苦の開 の入植地と変わったが に至ったことが判る。

が続いている。都府県も増えている北海道は好調 上回った。乳用牛頭数が 増の55万1956 シンとな も、北海道が前年同期比 り、12ヵ月連続で前年を 指定団体の総受託乳量 売実績によると、全国の 前年同月を上回った。 作物の作付け からの累計で の24万993 ン、都府県が ·5%増の33 量の内訳は、 る。都府県も 月比1・8% 分の用途別販 会議がまとめ)連続増 一産量が 都府県が〇 ている。 林大臣 3%減だが、累計では0 ち退きを求められ、移転 村離村を余儀なくされ 収され 多くの集落が解 ら終戦までの四十数年間 を大きく上回って推移し 累計で10・3%増と前年 ター向けは16・9%増、 と、飲用牛乳向けは1・ 同期を上回っている。 東北、近畿、九州が前年 累計では、中国のほか、 いる。都府県で最大生産 は立野原陸軍演習場に接 の副碑には碑文が刻んで 調に推移。脱脂粉乳・バ 累計でも3・2%増と堅 量の関東は〇・4%減。 %増と増産基調が続いて にみると、中国が6・8 た」とあり、先住者が立 一百十世帯に及ぶ開拓団 続いて、「戦後一転して 8%増とほぼ好調。チ 5%増となった。 4%増、全国合計で1 ズ向けは0・8%増、 都府県の8指定団体別 前段に「明治の後期か 用途別販売量をみる 中川一郎」。隣

の調査結果を公表した。 で、「新しい食」について 施している18歳意識調査 月30日、おおむね毎月宝

> 関連も併せて調べた。 それぞれ関心の高さとの きこと」などを質問し、

食料自給率について

(公財) 日本財団は11

足に備えて力を入れるべ

(4)

欠産業立て直し

・自給率に問題意識 食料不足

38%であることについて などの傾向がみられた。 すべき」との意見が多い いる人は過半数を超えて ついて「問題だ」と感じて 全国の17~19歳の男女1 と、日本の食料自給率に て、第一次産業を立て直 こう思うか」「コロナ禍 人が回答。それによる 「日本の食料自給率が 「食料不足に備え 59・8%だった。 男女別 は 全体で「問題だ」が

り食料事情が悪化する恐 8%、「環境の変化によ れ」が30・1%だった。 る可能性がある」が47・ 変化で物流がストップす く、次いで「国際情勢の 思う理由は、 が3・6浮高かった。 女性が61・6%で、女性 になった時に対処できな では、男性が53・0%、 食料自給率が問題だと が77・9%と最も高 「食料不足 かった。 ると仕方ない」などが多 8%、女性が50・6%で、 を第一に考えるのは当 方がない理由は、「自国 男性が3・2浮高い。仕 男女別では、男性が53・ 確保のための輸出制限 く挙がっている。 ・2%と最も多かった。 は、「仕方がない」が52 コロナ禍における食料 「感染リスクを考え 「問題だ」と回

10%

0%

第一次産業の

いから」などの回答が多 業に就いている人が少な う理由では、「第一次産 農家が減っているから 一後継者がなかなかいな 食料自給率が低いと思 高齢者が多いため」 食料不足に備えて日本は何に最も力を入れるべきか (単-

どだった。 「食料不足に備えて力

23.6

答 (22·5%) 「自給率の低い日本 30% した理由 20% 13.6

変える。

意識改革に取り組むなど なロールモデルを示す、 今後ますます女性が活躍 高いという調査もある。 していくためには、多様 わっている経営体は、 常利益増加率が71・4/3 一方、女性が経営に関

開

(公社) 中央畜産会は

畜産女性経営者育成強化全国シンポジウム

性経営者育成強化全国シ 11月17日、都内で畜産女

ョンのみとなった。生産 ストによるディスカッシ ず、今年は講演とパネリ

> の准教授・松田二子氏か 学院農学生命科学研究科

ンポジウムを開催した。

者等207名は、

他、リモートにより参加

と経営向上」と題して、 多様性がもたらす活性化 ら、「女性活躍と畜産~

現在の女性の経営に関わ

拓

修

の充実求める

情

17~19 歳男女

出制限をしたことについ で20近くの国と地域が輸

てどう思うか」

食料不

は33・8%。 畜産で酪農 向となっているが、性別 肉用牛が42・1%、養豚 女性を登用している割合 が41・2%などと高い傾 (北海道) が43・3%、 農業全体で役員として 苦労などについて話し合 た経緯、女性ならではの の女性活躍の現状、今の ョンが行われた。各分野 仕事に携わるようになっ ストによるディスカッシ 野で活躍する女性パネリ

安恵子氏が、「女性の経営 千葉県で養豚を営む高

では食料が不足する」な

11.8

労働力の確保 食料生産のための

に依然として課題がある 性の参加に課題を感じて 参加する人が少ない。女 者や従業員も増えている いる」と現場の課題を伝 経営に関する会議に

の対策が重要だと訴え 次に、畜産の様々な分 業中の大きな機械事故に ら報告された。 ればならず苦労した、作 車の整備を自分でしなけ 験が複数のパネリストか いくと、営農するうえで、 際に苦労した、などの経 遭った、重い機材を運ぶ さらに、議論が進んで

が、新型コロナウイルス いきネットワーク大会」 毎年開かれている「いき

の影響により開催でき

副会長から「コロナの影

があった。

なことなどについて講演 る上での課題や今後必要

冒頭、同会の井出道雄

る。女性の持つ力の可

な変化が起こりつつあ 響で畜産業界にも大き

すい環境づくりなどを 能性を発信し、働きや

してほしい」と挨拶が 力ある畜産経営を目指 話し合い、次世代に魅

続いて、東京大学大

り込みなど、人々の意識

役割分業意識の社会的刷

出た。女性は重い機械の 苦労したという話が多く 扱いに苦労すると思う。 公的機関や地域で研修の 充実をお願いしたい」と 松田氏が「機械関係で

全体(n=1000人)

5.1

新たな投資の

日本財団の資料を

みづくり 食料安定供給の仕組 国際社会と連携した

2.2

製造 代替たんぱく源の

11.2

テクノロジーの開発食料生産性を高める

スタイルは11月18日、「応 生産者等の支援が目的の 男女9994人が回答。 公表した。首都圏・関西 援消費」の意識・実態に関 ある人」は23・3%、「今 応援消費を「したことが 圏・東海圏の20~69歳の するアンケートの結果を (株)リクルートライフ 代20・9%の順で高い。 6%、60代23・4%、 も多かった。 女性は50代30・0%、

出席の関係機関に呼びか 生産者を応援するために購入・飲食したもの

「応援消費した・したい 野菜類購入が38・9%でトップ となっている。品目別で %で、合わせて74・4% みると、男性は30代23・ がある人」を性年代別に は、どちらも野菜類が最 応援消費を「したこと 74 4 % %の順。 性は50代49・5%、

「応援消費をしたこと がある品目(回答 9%となっている が最も高く、38・ は、全体で野菜類 者3514人) 」 が伺えた。 体で野菜類は

60

みられている。

り、生産者

%、②「消費者意識を変

も高い。②は「自給率は 問題だ」「輸出制限はた 限は問題だ」と回答した 保」11・8%の順で高かっ 生産のための労働力の確 える」13・6%、③「食料 と回答した人の割合が16 ③は「輸出制限は問題だ」 ともに15・7%で高い 方ない」と回答した人が、 た(図)。①では「輸出制 人の割合が32・9%と最

産業の立て直し」23・6 を入れるべきこと」(単 一回答) は、①「第一次 題にも関心が高い傾向が ほど、食料不足などの問 0%で最も高かった。 食の問題に関心が高い

「おいしい食べきり」キャンペ 農水省は12月1日

レン

農水省

外食時の食べ残し対策の

の提供(ポスターを)②

優良事例・ノウハウの横

消費者庁・環境省・全 は来年1月31日まで。 も呼びかけている。 る。外食時のみでなく、 ため、毎年実施してい は会食の機会が増える 家庭での食べきりなど を開始した。年末年始 全国共同キャンペーン キャンペーンの期間 おいしい食べきり 今年は家庭でのテイクアウト啓発も らうため、新たな啓発資 べきることを実践しても がら、外食 ている。感 食事の食べ 容は、①外 材も作成し ルスへの対 イクアウト キャンペー 今年は新型コロナウイ

を楽しみ、食 染対策をしな きりも啓発し 等の家庭での 策として、テ

る。

①の啓発資材は、全国

大会の開催となってい 展開③食品ロス削減全国

どにも配布し、実施を呼

びかける。②はどうして

るほか、各省庁の食堂な

体、学校などに配布され の地方公共団体や民間団

動ネットワーク協議会 国おいしい食べきり運 、運動の趣旨に賛同す りを呼びか 食べ残しゼロにトライ! <u>ල</u> <u>ල</u> ける啓発資材 り「mottECO(も

て推進する。③の

第4回食品ロス

ってこ)」も併せ

食時の食べき ーンの主な内

の自己責任による持ち帰 も食べきれなかった場合

で実施している。 ネットワーク)と共同 る地方公共団体による 削減全国大会」は、 に開催される。 富山県で12月16日

%、60代5·1%、40代 援消費の経験者・今後し 48・8%、40代47・0% 40代と60代で高い傾向が たい人ともに、男女とも 55・3%の順に多い。応 の順、女性は20代5・5 人」の性年代別では、男 「今後行いたい 60 代 ・鶏肉は、 も高い傾向となってお ・7%、女性は60代30・ 代女性が、野菜など幅広 1%が最も と最も高い %、女性は3 %でそれぞ い品目で他の 物類は男性 男性が30代30 の性年代より 高かった。60 60代39・5% が60代31・8 れトップ。果 牛肉·豚肉 9%、女性は50代59・1 %で最も高い。牛肉・豚 望が目立っている。 女性では畜産物の購入希 購入希望が、また、30代 50・60代女性は野菜類の 48・9%、女性は30代51 肉・鶏肉は、男性が40代 果物類は男性が60代46・ ・8%で最も高かった。

物類46·9%、牛肉·豚肉· の中心的な層であること (同5596人)」は、全 「今後応援したいもの 女性が50代72 は男性が50代 の順で高い。 61・9%、果 への応援消費 年代別でみる 3514人)」では、「消 ったから」32・7%と続 者の経営を助けたいと思 4%、「支援したい生産 たいと思ったから」38・ る価格だったから」が42 で、「せっかく購入する 費者側にもメリットのあ なら生産者の助けになり 0%と最も高い。次い 「応援消費の動機(同

後行いたい人」は51・1 40% 20% 代27・9%、40代27・8 畜産物 農産物・林産物 が60代41・0%、 と、野菜類は男性 性年代別でみる 女性が60代50・1 (図)。各品目を

鶏肉46・1%

58 8 %

と、野菜類 それぞれ性

·7%でそれ

ぞれトップ。

埼玉県農業技術研究センター

№₹果房局所加温で冬期収穫早期化 端境期対応、冬と夏に環境制御

収穫の少ない端境期には、高単価で の取引が期待できる。施設トマトでも、 端境期を短縮し、安定生産・出荷が行 えるような技術が求められている。

埼玉県農業技術研究センターは、同 県内の施設トマト生産における端境期 解消のため、局所加温による「冬期収 穫開始の早期化」と、日中の細霧冷房 とヒートポンプ夜冷」による「夏期の 可販果率向上」の2つの環境制御技術 による試験を実施した。

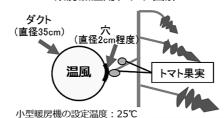
①冬期収穫開始の早期化

トマトの開花~収穫までの積算温度 を効率的に増加させる局所加温技術の 検証のため、18年12月中旬~19年3月 下旬にかけて栽培試験を行った。試験 区には、小型暖房機と温風ダクトを用 いて果房を局所加温する「ダクト区」 (図)と、局所加温しない「対照区」 を設けた。供試品種は「CF 桃太郎はる か」とした。

ダクト区は、株ごとに1ヵ所、ダクト の果房付近に穴を開け、温風が果房を 直接温めるようにした。小型暖房機の 設定温度は25℃で、第一果房が開花し た苗の定植直後から加温を開始した。

試験の結果、局所加温による1日の 平均果実温度は、ダクト区が21.2℃、 対照区が17.3℃だった。収穫開始日は ダクト区が12日程度早くなると算定し ていたが、実際はダクト区で2月15日、 対照区で3月1日と、ダクト区が14日 早い収穫開始となった(表1)。さら に、3月22日までの収量を比較すると、

果房加温用ダクト図解



ダクト区が約16%多くなった(**表1**)。 以上により、果房付近への局所加温 で、冬期の収穫開始時期が早まること が示された。

②夏期の可販果率向上

収穫終了期の延長を目的に、18年6 月中旬~7月末にかけて試験を行っ た。試験区には、日中の細霧冷房とヒ ートポンプ夜冷を併用した「処理区」 と、同装置を使用しない「対照区」を設 けた。供試品種は「CF 桃太郎はる か」とした。

処理区の細霧冷房は、27℃以上で稼 働、稼働時間を8時~16時とした。ヒ ートポンプは、設定温度を15℃、稼働 時間を20時~翌4時に設定した。

表1 冬期試験10a 当たりの収量 (19年2月15日~3月22日) 収穫開始日 収量 (t) 果実径(mm)

ダクト区 2月15日 1.50 60.4 対照区 3月1日 1.29 60.0 品種「CF 桃太郎はるか」 定植日 18年12月14日 表2 夏期試験10a 当たりの収量 (18年6月18日~7月30日)

	総収重(I)	可) 瑁収率※	
処理区	3.52	1.47	160%	
対照区	3.75	0.92	100%	
口衽 [/	マロー・サート 中の ループ	~ 그 수 # ㅁ	17年0日14日	

品種|CF 桃太郎はるか」 定植日 17年9月14日 ※対照区を100%として算出 図・表ともに埼玉県農業技術研究センターの資料より

試験の結果、処理区の夜間平均温度 は、ヒートポンプの効果で対照区より 6℃低い18℃となった。また、日中の 平均相対湿度は、細霧冷房の効果で対 照区より10%増加し、トマトの生育に 適した湿度である60~70%を保つこと ができた。総収量は、6月18日~7月 30日の間で区間に大きな差はみられな かった。だが、処理区は対照区と比べ て裂果などの発生が減り、可販果収量 は60%増加した(表2)。

以上により、細霧冷房とヒートポン プ夜冷の組み合わせで、夏期の可販果 収量が増加することが示された。

露地での天敵利用に温存植物重要 生産現場のIPM実践

(公社) 大日本農会は11月26日、20 年度の第4回農業懇話会をウェブで開 催。鹿児島県農業開発総合センターの 研究専門員・柿元一樹氏が「天敵利用 を基幹とした IPM を農業経営に取り 込む~SDGs 時代の実践的害虫管理」 と題して、天敵利用の生産現場での活 かし方について講演を行った。

天敵利用は、IPM(総合的病害虫・ 雑草管理)に組み込まれる手法の1つ。 近年、「多様な害虫に効果のある天敵 製剤の製品化」「天敵に優しい薬剤の 開発」などを背景に、施設栽培を中心 に現場での利用が進んでいる。持続可 能な農業の実現に向けた、薬剤の使用 量を抑えた方法としても注目されてい る。また、天敵の放飼作業には防護服 が不要で、作業性にも優れるといった 利点もある。

同氏はまず、施設ピーマンでの普及 事例を解説。①複数の害虫に効果があ り、花粉でも増殖可能なスワルスキー カブリダニによる予防的な防除、②捕 食性カメムシによる作期後半のアザミ ウマ対策、③天敵温存植物で人為的に 天敵のすみかをつくる「バンカー法」。

ほ場外で適切に処分する。

本ぽでの発生は苗からの持ち込み が多く、苗床から徹底した防除が必 要となる。定植後のビニール被覆を 行った後に発生が増えやすいので注 意する。

②虫の密度が高いと薬剤の防除効 果が低下するので、散布前に寄生さ れた下葉を除去してから行う。ハダ 二類は、薬剤に対する抵抗性の発達 が著しいため、必ずローテーション 散布する。

薬液は葉裏や葉柄にもかかるよう 丁寧に散布。散布後の効果確認も忘

③気門封鎖剤は抵抗性が発達しに くいが、卵には効果が低いため、5 敵製剤の利用も効果が期待できる。

この3つを組み合わせ、薬剤でのみ防 除する場合に比べ、コスト低減や省力 化効果が得られた。

続けて、露地栽培での天敵利用の現 状を説明。ほ場周辺に天敵温存植物を 植栽し、地域の天敵(土着天敵)を誘 引することがポイントだと強調した。

同県の夏のオクラ栽培では、アブラ ムシが3~4回発生する。そこで、土 着天敵である捕食性カメムシのすみか となるヘアリーベッチとソルガムを、 ほ場周辺に植栽。1作を通じて土着天 敵が機能する体系として利用されてい る。

露地の天敵温存植物には、すみかづ くりの他にも、害虫を誘引する「おと り効果」と、ソルガムであればブロッ クして侵入量を低減させる「障壁効果」 の2段構えの構造がある。「これらの 効果は今後、様々な露地作物の IPM に貢献できるだろう」と語った。

同氏は最後に、「防除は生産者にと って消極的な作業だが、IPM の実践を 消費者にアピールしていければ、生産 物に新たな価値が付与できる」とまと めた。

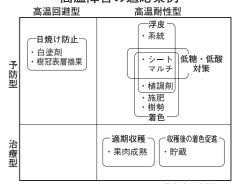
新栽培技術導入などで温暖化対応 農水省、気候変動適応ガイド・ミカン編公表

農水省はこのほど、農業生産におけ る気候変動適応ガイド(ウンシュウミ カン編)をホームページで公表した。 8月に公表したリンゴ編と同様に、産 地で温暖化適応策の計画を立てる際の ポイントなどをまとめたもの。

温暖化が進んだ場合、ミカンへの影 響として、浮皮、日焼け果、着色不良 など果実品質の低下が心配される。適 応策として「栽培技術」「対応品種の 利用」「温暖化の活用」の3つが挙げ られる。

栽培技術での対応例として、マルド リ(マルチ被覆+ドリップかん水)方 式の導入がある。気象条件に応じて、 かん水と施肥を制御する技術で、品質 ・収量の安定化や浮皮の軽減などの効 果を発揮する。山口県では、インター ネットに接続して遠隔操作が可能な 「通信型マルドリシステム」も開発し ており、今後の普及が期待される。

高温障害の適応策例



農水省の資料より

対応品種の利用では、静岡県が浮皮 の発生が少ない品種を開発し、今年か ら県内産地での導入に向けて動いてい る。温暖化の活用例では、愛媛県が冬 期の低温でこれまで栽培できなかった 「ブラッドオレンジ」を産地化し、新 たなブランドを確立した。

産地全体で優先課題を特定し、適応 策(図)を選択。その効果をみながら、 計画の評価と見直しを行うことが温暖 化への備えに重要となる。

こまめな観察で早期発見 施設イチゴのハダニ防除

施設イチゴでは、冬の間もハダニ類 の発生がみられる。主に問題となるの は、「ナミハダニ」と「カンザワハダ 二」の2種類。

野菜や花き類だけでなく周辺の雑草 にも発生する。降雨が少なく乾燥が続 くと発生が増えてくる。

防除対策

①増殖する前の防除が重要となる。 ハダニ類は小さく発生に気付きにくい ため、ルーペなども使いながら葉の観れず行う。ミツバチ放飼後は、ミツバ 察をこまめに行う。葉の白いカスリ状 チに影響の少ない薬剤を使用する。 の斑点は、既に被害を受けている可能 性がある。紫外線を嫌い、下葉に多く 寄生するため、新葉の展開に伴い下葉 日程度の間隔で複数回散布する。天 を除去するのが有効。除いた下葉は、

京都府農林水産技術センター畜産センター 乳₊ イネ WCS で酸化ストレス軽減 分娩3週前から13週間給与、飼料費削減も

分娩前後の乳牛は、肝臓での酸素の 利用が増えることで「活性酸素」が体 内で多く産生される。活性酸素が過剰 に発生している状態(酸化ストレスの 増加)は牛にとって有害で、周産期病 の一因となる。

京都府農林水産技術センター畜産セ ンターは、酸化ストレスを軽減させる 「βカロテン」や「αトコフェロール (ビタミンE)」がイネ WCS(発酵粗飼 料)に多く含まれていることに注目。 分娩前後の乳牛に対して給与試験を行 い、酸化ストレスの動態を調査した。

試験は、分娩前3週~分娩後10週(約 90日) にかけて、輸入乾草を給与する

「乾草区」と輸入乾草をイネ WCS (品 種「コシヒカリ」、1日当たり約8kg 給与)に置き換えた「イネ WCS 区」 を設けた。両区とも5頭ずつ供試した。

試験の結果、酸化ストレスの指標物 質(活性酸素により生じた体内物質や 抗酸化物質)は、両区に差が生じた。 イネ WCS 区では分娩前後のαトコフ ェロールの血中濃度が増加。さらに、 酸化することで活性酸素を発生させる 「遊離脂肪酸(NEFA)」の血中濃度は、 乾草区より低い値で推移した(図1、 2)。以上により、イネ WCS の酸化ス トレス軽減の可能性が示唆された。

両区とも乳量は同等で、試験中に周

図1 分娩前後における 血中αトコフェロール濃度の推移 典300 250 ●:乾草区(n=5) * :P<0.05 **:P<0.01 ₹200 l 150 濃100 _{μg} 50 ďІ 2 4 6 分娩後週数(週) 8 10 12 図2 分娩前後における 血中 NEFA濃度比の推移 ○:イネWCS区(n=5) •:乾草区(n=5) 800

600 * :P<0.05 FA 400 濃度 上 200 分娩後週数 (週) 京都府農林水産技術センター畜産センターの資料より

産期病がみられた牛はいなかった。粗 飼料費は、イネ WCS が乾物 1 kg当た り11.0円。主な輸入粗飼料の単価は、ク レイングラスが同57.2円、ヘイキュー ブが同87.3円などとなっており、これ らと比べてイネ WCS は低く抑えられ た。実際に要した粗飼料費をみると、 イネ WCS 区が乾草区よりも1日当た

り平均56.5円(9.0%)削減できた。

さらに、輸入乾草や配合飼料のみで はβカロテンやαトコフェロールが不 十分となり、現状では多くの場合は飼 料添加物や混合飼料が使われている。 イネ WCS の利用により、飼料添加物 などの削減も可能とされた。

府内の搾乳牛30頭規模の経営で分娩 前後90日間給与を想定した同センター の試算によると、イネ WCS では粗飼 料費が年間15万3千円の削減が見込ま れた。さらに飼料添加物などの利用削 減により、年間11万9千円の収益増を 見通している。

同センターは、「今回は周産期病の 発生はみられなかったが、酸化ストレ ス低減の効果が期待できる結果だと思 われる」としている。 今後、イネ WCS の有用性を周知する他、酪農家向けの 給与マニュアルを作成して普及・推進 を図ることを予定している。

さらに、ボトル給与とストマックチ

ューブ給与では、給与後の子牛の血清

抗体濃度がほとんど変わらないという

データを提示。「子牛がかわいそうだ と思っても、確実に飲ませることが大

飼料費

(44.1%)

初乳給与は質・量・タイミング大切 哺乳管理でセミナー開催

オルテックジャパン合同会社は11月 24日、酪農セミナーをウェブで開催。 酪農家や畜産関係者など、全国から多 くの人が参加した。その中で、広島大 学大学院統合生命科学研究科の准教授 ・ 杉野利久氏が「子牛の哺乳管理:初 乳から始まる哺乳プログラム」と題し て講演を行った。

なるべく早く初乳給与を

子牛の良好な発育には、初乳の質・給 与量・給与のタイミングが大切。分娩前

の母牛の過剰エネルギー摂取により、 初乳中の抗体(IgG)濃度は低下するた め、母牛の管理は子牛のコンディショ ンにも影響することに留意する。

生乳と同様、初乳中にも細菌が存在 する。同氏は、低温殺菌した初乳で、 非加熱の場合より抗体吸収率が上がっ たという北米の研究を紹介。「出産時 に行うのは手間となるため、凍結保存 する初乳については低温殺菌してから 保存するのが重要」と解説した。

給与のタイミングは、出生後6時間

が分岐点で、早ければ早いほど良い。 適切な給与量は、初乳中の抗体濃度に よる。母牛の状態によって初乳の抗体 濃度は変化するため、糖度計などを用 いて各自調べることが大切。計測して 質が良くないと感じた場合、粉末初乳 で濃くするなど対応する。

事。自ら飲むまで待つ場合でも、6時 間までが限度」と説明した。

労働費 (18.0%) その他 (12.2%) 費用合計 93万3781円 (100%) 獣医師料 物財費(820° 医薬品費

た。なお、今回から年次単位での調査 に変更され、以下のカッコ内は19年と 18年度を比較している。

搾乳牛1頭当たりの生産費のうち、 費用は合計で93万3781円(前年度比 1.7%増)。このうち、物財費は76万5981 円(2.2%増)、労働費が16万7800円 (0.6%減) となっている。

物材費の内訳は、飼料費が41万1699 円(2.4%増)と最も多く、費用全体の 4割半ばを占める(図)。次いで、乳 牛償却費が17万1383円(4.3%増)で全 体の約2割を占めた。その他、農機具 費が3万8454円(3.0%減)、獣医師料 及び医薬品費が3万27円(1.8%増)と なっている。飼料費の全体に占める割 合は年々増えており、安価な国産飼料 の利用拡大が望まれる。

生乳100kg当たり(乳脂肪分3.5%換 算乳量)の全算入生産費は8236円 (2.1%増) だった。

なお、1経営体当たりの搾乳牛飼養 頭数は58.7頭(4.1%増)と規模拡大が 進んでいる。一方、1頭当たり投下労 働時間は、99.56時間(1.9%減)と減少 し、省力化の進行がうかがえた。

1頭当たり物材費2.2%増 19年 牛乳生産費

12月4日に農水省が公表した19年の 牛乳生産費の調査結果によると、搾乳 牛1頭当たりの資本利子・地代全額算 入生産費(以下、全算入生産費)は79 万6467円で、前年度より1.8%増加し

(公社) 中央畜産会は11月25日、都 内で20年度の全国優良畜産経営管理技 術発表会を開催。酪農・肉用牛・養豚 など全国8事例の発表があった。今年 は新型コロナウイルスの影響により、 一部発表者及び一般聴講者はリモート での参加となった。

最優秀賞には4事例が選ばれた。そ のうち開拓農家から、北海道湧別町の 酪農経営、久保拓也さん・環さ ん夫妻(レークランドファーム 久保牧場)が受賞。同牧場は、 1949 (昭和24) 年に初代経営主 (祖父) が開拓入植した。拓也 さんは3代目で、アメリカにて酪農研 修を受けた後、99年に就農した。

夫妻は、「Working hours 1920~子 供たちにカッコイイと思ってもらえる 農業がやりたい」と題して発表。同牧 場は、経産牛52頭、育成牛45頭、出荷 乳量494 t 、耕地面積44.6ha の家族経 営。経営理念として、「牛を大切にす る酪農」「高品質な自給飼料の生産」

「省力化と労働時間の短縮」の3つを 掲げている。

改修を重ねた牛舎は、哺育舎・育成 舎・搾乳舎がつながっており、外に出 ることなく作業を行うことができる。 哺育管理では、産まれた子牛全頭に対 して、気道内の羊水を人工呼吸器で吸 入。初乳の飲みが良くなり、元気に育 つという。

全国優良畜産経営管理技術発表会 北海道・久保夫妻、最優秀賞 ヘルパー活用で労働軽減

経産牛を長く供用していることか ら、後継牛は自家産。初妊牛は市場販 の確保が重要だと強調。家族経営協 売に回しており、個体販売が経営の大 定の締結により、報酬や作業分担な きな柱となっている。牛を大切にする 管理を実践するため、衛生的な環境づ くりを常に心がけ、特に牛の尻尾は毎スの時間に充てている。 日洗っている。

飼料作では、土壌分析結果に応じて、 畑ごとに肥料を使い分けている。牧草 賞受賞に至った。



は、早刈りしてラップサイレージに することで二次発酵を抑え、高栄養

> で嗜好性の高い飼料となる。デ ントコーンの収穫は、地元コン トラクターを利用。大型機械に より短時間で収穫作業を終え、 貯蔵ロスを低減している。

最後に、家族と一緒に過ごす時間 どを明確化した。また、酪農ヘルパ・ ーを月3~4日利用し、家族サービ

積極的な省力化や労働軽減への取 り組みなどが高く評価され、最優秀

増体向上し疾病減少 ネックウォーマーとジャケットで

子牛は寒さに弱く、対策が適切でな いと病気になったり、成長が妨げられ

北里大学獣医学部動物飼育管理学研 究室は、ネックウォーマーまたはカー フジャケット及びその両方の子牛への 着用による①直腸温度、②疾病発生・ 発育状況に及ぼす効果を検証した。

一検証1-

方法:19年11~12月に青森県内の開 拓組織の牧場で実施。6~10週齢の交 雑種子牛18頭を供試した。ネックウォ ーマー着用の「N区」、カーフジャケ

ット着用の「J区」、ネックウォーマー とカーフジャケットを併用した「NJ 区」の3区に3頭ずつ配置し、何も着 用しない「対照区(C区)」それぞれ 3頭と比べた。着用開始後0時間、2 時間、4時間に直腸温度を計測した。 牛舎環境温度は6.4~11.0℃、カーフハ ッチで個別飼育し、ヒーター等は使わ なかった。

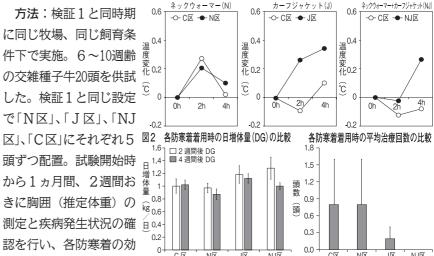
結果:各防寒着着用後の直腸温度の 変化は、図1のとおり。J区とNJ区で は着用後に直腸温度が高くなる傾向が 認められた。

一検証2一

方法:検証1と同時期 に同じ牧場、同じ飼育条 件下で実施。6~10週齢 の交雑種子牛20頭を供試 した。検証1と同じ設定 で「N区」、「J区」、「NJ 頭ずつ配置。試験開始時 から1ヵ月間、2週間お 俳 測定と疾病発生状況の確 10.4 認を行い、各防寒着の効 果を比較。牛舎環境温度 は-1.7~19.2℃だった。

結果:各防寒着着用後の日増体重 (DG) と平均治療回数は図2のとお り。J区とNJ区で2、4週間後のDG が高い傾向となった。平均治療回数は

図1 各防寒着着用後の直腸温度の変化



J区と NJ 区で少ない結果となった。

図1、2ともに北里大学獣医学部動物飼育管理学研究室の資料を一部改変

以上のことから、今回の検証では、 カーフジャケット、ネックウォーマー +カーフジャケットの着用が寒冷対策 として効果が認められた。

19年 肉用牛•肥育豚生產費 交雑・肉用種肥育牛で減少 乳用雄肥育牛では増加

農水省は12月4日、19年の肉用牛・ 肥育豚生産費の調査結果を公表した。 肉用牛1頭当たり資本利子・地代全額 算入生産費(以下、全算入生産費)は、 前年度に比べ、交雑種肥育牛、去勢若 齢肥育牛で減少した。乳用雄肥育牛は 素畜費等の上昇で増加している。依然 として出荷までの諸費用は生産者の重 い負担となっている。

なお、今年から調査期間を1~12月 に変更。対前年度増減率は、19年と18 年度を比較したものとなっている。

乳用雄肥育牛

1頭当たり全算入生産費は、53万 4792円(前年度比0.2%増)だった。物 財費のうち、素畜費が25万3603円 (3.5%増)と増加し、高値が継続した

こと、敷料費が9036円(19.9%増)と増 加したことが影響している。

1頭当たり販売価格は51万1198円 (2.4%増)、1経営体当たり販売頭数 は110.6頭(8.9%減)、1頭当たり投下 労働時間は13.12時間(16.8%減)とな っている。

交雑種肥育牛

1頭当たり全算入生産費は、79万 4770円(前年度比4.1%減)となった。 素畜費が40万5634円(5.8%減)、飼料 費が29万7952円(0.2%減)と減ったこ とが影響した。

1頭当たり販売価格は79万9867円 (0.2%増)、1経営体当たり販売頭数 は101.9頭(7.6%増)、1頭当たり投下 労働時間は24.31時間(2.0%減)で、販

全開連、子牛用防寒鷺の供給開始

全開連は、カーフジャケットとネ ックウォーマーが一体となった新し い子牛用の防寒資材「やるジャン!! ベコジャン」を考案。今月から供給 を開始している。

ベコジャンの強みは、①ボディー 体型のチェストウォーマー(胸部の 保温) とネックウォーマーですきま 風をガード、②しっかりとした裁縫 と丈夫なバックルで長く使える高品 質、③防水加工で雪や夜露も安心。

洗濯機で洗濯可能一の3点。S・M・ Lの3サイズあり、子牛に合ったもの が選べる。

詳細は会員組合に問い合わせを。



写直提供:全開連

るとみられる。 肉専用種子牛

1頭当たり全算入生産費は、65万 5600円(前年度比0.7%増)となった。 繁殖雌牛償却費が4万8909円 (8.0% 増)、種付け料が2万1467円(2.4%増) など、費用が増えたことによる。

売頭数が増加し、規模拡大が進んでい

1頭当たり販売価格は73万5646円 (0.6%減)、1経営体当たり子牛販売 頭数は12.7頭(5.0%増)、1頭当たり 投下労働時間は124.20時間(1.8%減) で、販売頭数は増加傾向にある。

肉専用種去勢若齢肥育牛

1頭当たり全算入生産費は、133万 6990円(前年度比3.8%減)となった。

素畜費が84万4283円(5.6%減)となり、 減ったことなどによる。

1頭当たり販売価格は133万1679円 (2.5%減) と減少し、1経営体当たり 販売頭数は42.4頭(0.2%増)、1頭当 たり投下労働時間は50.00時間(0.6% 増)となった。

肥育豚

1頭当たり全算入生産費は3万3824 円(前年度比2.7%増)だった。光熱費 が1730円(4.2%増)、労働費が4767円 (3.4%増)と増えたことなどによる。

1頭当たり販売価格は3万6629円 (1.8%増)、1経営体当たり販売頭数 が1300.6頭(7.0%減)と大きく減少し た。1頭当たり投下労働時間が2.95時 間(1.4%増)となった。

地域で情報共有しイノシシ対策 疾病侵入に改めて注意を

農研機構中央農業研究センター鳥獣 害グループの平田滋樹氏の都内での講 演から、牛舎などへのイノシシの侵入 防止に重要な点を紹介する。

○地域で区画ごとに対策を

地域の連携が必要。一部の人だけが 対策をしても、対策をしていない他の 箇所から回り込まれて被害を受ける。 地域の区画ごとの対策が最も維持・管 理がしやすく、コストも抑えられる。

○侵入防止柵は維持・管理しやすく 侵入してエサを食べようとするイノ シシの執着は強い。どんな対策も放置 すれば必ず侵入される。維持・管理を 考えた資材と場所を選んでの柵設置が 重要。イノシシに学習されると必ず突 破されるため、定期的に点検する。

牛舎周りに柵を設置する場合は、遠 回りな張り方にならないように注意す る。目の届く位置に柵を張り、管理を 怠らない。

○病気の媒介に改めて要警戒

口蹄疫の国内での発生から年数が経 っており、牛舎の周りは他の畜種に比 べて対策が手薄になっていることが見 受けられる。イノシシの病気は牛にも 感染するものがあり、侵入されてから では遅い。

同氏は最後に、肉用牛を飼うことも 農業の一分野であり、独立したものと 思わないことが重要だと訴えた。耕畜 を問わず地域で情報共有し、必ず協力 していくことの大切さを改めて強調し

交雑・乳用種で連続発動 牛マルキン10月分

農畜産業振興機構は12月11日、肉用 牛肥育経営安定交付金制度(牛マルキ ン)の20年10月販売分の交付金単価(1 頭当たり、概算払)を公表した。

新型コロナウイルスの影響により、 販売価格が前年同月を下回って推移し ていることから、交雑種は9ヵ月連続、

乳用種は52ヵ月連続の発動となった。 肉専用種は38都道県で発動した。

交付金単価は、交雑種が12万7468.4 円、乳用種が3万3969.2円。前月に比 べて交雑種は販売価格が上昇したこと で3万6426.1円減、乳用種は素畜費が 下がったことで5237.5円減となった。

なお、積立金が不足する都道府県で は、国費分のみ(4分の3相当額)の 支払いとなる。

内

食

需

高

ŋ

期

牛枝肉

新型コロナ再拡 大で、業務用需 要の回復は鈍く

11月の枝肉相場は、内食需要が堅調 な中、政府のGoToキャンペーンに より消費が活性化され、前月に続き上 伸した。だが、新型コロナウイルスの 感染が再拡大し、会食や外出の自粛で、 消費量の大幅な増加は期待できない状 況となっている。

【乳去勢】11月の東京市場の乳牛去 勢B2の税込み平均枝肉単価(速報値、 以下同じ)は954円(前年同月比97%) となり、前月に比べ86円上げた。

農畜産業振興機構の需給予測による と、12月の乳用種の全国出荷頭数は2 万7600頭(100%)と前年並みを見込ん でいる。

【F₁去勢】11月の東京市場の交雑種 (F1) 去勢税込み平均枝肉単価は、B3 が1610円(前年同月比101%)、B2は 1472円(102%)となった。前月に比べ それぞれ196円、217円上げた。月初め から堅調で、中旬から月末にかけてじ り高で推移した。

同機構は、12月の交雑種の全国出荷 頭数を2万1600頭(102%)と増加を予 測している。

【和去勢】11月の東京市場の和牛去 勢税込み平均枝肉単価は、A4が2513 円(前年同月比104%)、A3は2307円 (107%) となった。前月に比べそれぞ れ181円、176円上げた。

同機構は12月の和牛の全国出荷頭数

を5万200頭(112%)と予測。牛全体 でも10万1000頭(106%)と、前年同月を かなりの程度上回ると見込んでいる。

開

12月の輸入量は総量で4万7000 t (89%) と予測。内訳は冷蔵品2万900

> t (97%)、冷凍品 2 万6100 t (83%)。冷蔵品は豪州 の生産量減少に伴う現地価 格の高騰や、新型コロナウ イルスの影響による北米工 場の作業効率の低下などか ら、前年同月を下回る見込 み。冷凍品は冷蔵品と同様 の影響に加え、前年の輸入 量が多かったことから、前 年同月を大幅に下回ると予 測している。

> 新型コロナウイルスの感 染再拡大で、外食など業務 用需要の回復が鈍りつつあ る。一方、内食需要が高ま

ることが予想される。量販店など小売 向け需要の伸びに期待したい。

12月の出荷頭数は、和牛を中心に前 年比6%増と予測されている。相場は 昨年と同様、弱含む展開が予想される。 ただ、交雑種は堅調な量販店需要によ り、高値を維持するか。

向こう1ヵ月の東京市場の税込み平 均枝肉単価は、乳牛去勢B2が900~ 950円、F₁去勢B3が1500~1600円、B 2は1350~1450円、和牛去勢A4が 2500~2600円、A3は2250~2350円で の相場展開か。

11月の子牛取引状況

מאאוראאון בפסנווו								(頭、」	kg、円)	
-Ju	ブロック	品種	頭数		重 量		1頭当たり金額		円/kg	
			当月	前月	当月	前月	当月	前月	当月	前月
	北 海 道	乳去	549	612	286	283	249, 044	241, 728	871	854
北		Fı去	1, 237	1, 243	316	316	429, 526	385, 752	1, 359	1, 221
		和去	1, 389	1, 286	311	313	744, 516	677, 370	2, 394	2, 164
	東 北	乳去	1	6	239	239	35, 200	131, 633	147	551
東		F ₁ 去	4	14	200	301	221, 650	357, 107	1, 108	1, 188
		和去	1, 842	1,898	304	305	734, 099	676, 670	2, 415	2, 218
	関 東	乳去	33	30	282	295	252, 933	263, 596	898	894
関		Fı去	83	118	293	308	385, 342	361, 471	1, 314	1, 174
		和去	701	1,057	270	264	717, 987	653, 674	2,661	2, 476
	北陸	乳去	-	-	_	_	_	-	-	_
北		Fi去	-	-	_	_	-	_	_	_
		和去	177	-	259	_	697, 033	-	2, 694	_
		乳去	11	13	293	290	243, 300	254, 438	830	877
東	東 海	Fı去	34	73	317	295	379, 241	332, 606	1, 198	1, 127
		和去	499	257	265	262	755, 034	732, 385	2, 849	2, 792
	近 畿	乳去	-	3	_	149	-	132, 000	-	886
近		Fı去	_	3	_	200	_	346, 866	_	1,734
		和去	445	364	260	254	783, 140	786, 908	3, 009	3, 100
	中四国	乳去	44	73	260	269	217, 625	213, 083	838	794
中		Fı去	199	183	309	314	390, 129	378, 333	1, 264	1, 203
		和去	564	812	285	284	728, 790	690, 119	2, 560	2, 428
	九州・沖縄	乳去	20	12	311	262	231, 715	174, 075	746	666
九小		Fı去	353	379	313	313	409, 178	401, 177	1, 309	1, 281
		和去	9, 064	7, 577	289	292	778, 240	715, 023	2, 691	2, 446
	全 国	乳去	658	749	285	281	246, 191	237, 627	864	846
全		Fı去	1, 910	2,013	313	314	418, 410	384, 374	1, 337	1, 224
		和去	14, 681	13, 251	290	292	763, 115	701, 767	2, 631	2, 403

(独)農畜産業振興機構の公表データを基に本紙集計、当月は暫定値。 価格は消費税込み、重量・金額・単価は加重平均。- は上場がなかったことを示す。 関東ブロックは山梨県、長野県、静岡県を含む。

量販店で交雑種増加の見通し

20年度下半期の食肉販売動向

国の主要な小売業者(量販店20社、 食肉専門店63社) などを対象とした 食肉販売動向調査結果(20年度下半 期)を公表した。20年度下半期の量 も挙がった。 販店の食肉販売量は、おおむね増加 の見通し。食肉専門店では、全ての 食肉で「同程度」が最も多い見通し となっている。

新型コロナウイルス感染症(以下 「コロナ」)の影響を受ける前(19 年度下半期) に比べ、量販店の20年 度上半期の食肉販売量の増減割合 は、全ての食肉で「増加した」が「減 少した」を上回った。コロナの影響 による内食需要の増加に加え、仕入 れ価格の低下が、和牛の取り扱いを 押し上げている状況がうかがえた。

食肉専門店では、和牛及び交雑種 で「増加した」が最も多かったが、 他の食肉では「変わらない」が最も

農畜産業振興機構は11月13日、全 多い。量販店に比べて「増加した」が 少なかった理由として、「消費者の低 価格志向から、比較的安価な商品を取 り扱う量販店へ客足が流れた」との声

> 量販店の19年度下半期と比べた20年 度下半期の販売見通し(重量ベース) は、乳牛及び輸入豚肉以外の食肉で「増 加」が最も多い。コロナの影響による 内食需要の増加を取り込み、食肉販売 は全体的に増加の見通しとなってい る。和牛、交雑種の増加割合が高く、 その理由として「仕入価格低下分の価 格の引き下げ」などが挙げられた。

一方、食肉専門店では、全ての食肉 で「同程度」が最も多く、量販店とは 対照的な結果となった。和牛、交雑種、 乳牛の減少割合が高い理由としては、 「消費者の低価格志向」や「コロナの 影響による景気の停滞」が挙げられて いる。

豚枝肉

内食・鍋需要の 高まりで、底堅 い展開が続くか

11月の東京食肉市場税込み平均枝肉 単価は、上物が530円(前年同月比 117%)、中物は493円(113%)となっ た。前月に比べどちらも7円の下げに とどまり、ほぼもちあいだった。新型 コロナウイルスの感染再拡大で堅調な 内食需要が継続し、相場は前年同月を 上回って推移している。

農水省の肉豚生産出荷予測による と、12月は146万4千頭(前年同月比 99%、過去5年同月平均比100%)、1 月は139万3千頭(96%、99%)と前年 を下回って推移すると見込んでいる。

農畜産業振興機構の需給予測による と、12月の輸入量は総量で6万9500 t

(前年同月比96%) の見込み。内訳は 冷蔵品3万4200 t (99%)、冷凍品3 万5300 t (93%)。冷蔵品は新型コロ ナウイルスの影響による北米工場の作 業効率の低下などから、前年同月を下 回ると予測。冷凍品は国内の在庫が高 い水準にあることに加え、前年の輸入 量が多かったことから、前年同月をか なりの程度下回ると見込んでいる。

新型コロナウイルスの影響による内 食需要や気温の低下に伴う鍋物需要の 高まりが見込まれる。また、鶏肉の供 給量が不足しており、代替需要も強ま るか。相場は、引き続き底堅い展開が 予想される。

向こう1ヵ月の東京食肉市場税込み 平均枝肉単価は、上物が500~530円、 中物は460~490円での相場展開か。



乳素牛・和子牛 もちあい、スモ ールは強含みか

【乳素牛】11月の乳素牛の全国1頭 当たり税込み平均価格(左表、月末の 取引結果を除く暫定値)は、乳去勢が 24万6191円(前年同月比107%)、F1去 勢は41万8410円(88%)となった。前月 に比べそれぞれ8564円、3万4036円上

肥育牛の出荷増に伴う空き牛舎への 導入により、両品種とも、もちあいで 推移すると予想される。

【スモール】11月の全国24市場の1 頭当たり税込み平均価格(農畜産業振 興機構調べ、暫定値)は、乳雄が10万 3054円(前年同月比99%)、F1(雄雌含

む) は15万7694円 (68%) となった。前 月に比べそれぞれ1万6961円、2万 1262円上げた。両品種とも前月まで4 ヵ月連続で値下がりしていたが、上昇 に転じた。

枝肉相場が堅調なことから、スモー ルは強含みの展開か。

【和子牛】11月の和子牛去勢の全国 1頭当たり税込み平均価格は、76万 3115円(前年同月比97%)となった。 前月に比べ6万1348円上げた。枝肉価 格の上伸が主な要因で、全国的に前月 を大きく上回った。

新型コロナウイルスの感染が再拡大 し、和牛肉の業務用需要の先行きは不 透明。例年、子牛の需要が強まる時期 だが、今年はもちあいで推移するか。